



暴力防止指導

地域社会とともに
開かれた矯正へ

■ 指導の目標

自己の暴力に至るパターンを理解し、自己の暴力及び事件による被害者に対する影響及び責任を認識させるとともに、適切に自己の考え及び感情を表現するための具体的な方法を習得させる。

- 対象者 暴力事犯の原因となる認知の偏り又は自己統制力の不足等がある者
- 指導者 刑事施設の職員、民間協力者
- 指導方法 グループワーク、個別課題等
- 実施頻度等 1 単元 60～90 分
 コアプログラム：10 単元、標準実施期間 3～4 か月
 オプションプログラム※：各 5 単元、標準実施期間 各 1～2 か月
 ※「児童虐待」と「配偶者等暴力（DV）」の 2 種類

カリキュラム

コアプログラム

1	オリエンテーション	受講の目的及び意義を理解させ、受講に対する動機付けを行う。
2	暴力のパターンを理解する	認知行動療法の基本モデルを理解させるとともに、同モデルに基づく自己の暴力のパターンを検討させる。
3		
4	思考の「くせ」	暴力につながりやすい自己の思考の「くせ」を理解させるとともに、適切に対応するための思考を検討させる。
5		
6	「感情」を理解する	暴力の背景にある感情及び気付きにくい感情について整理させるとともに、暴力以外の表現方法について検討させる。
7		
8	「身体反応」を理解する	怒り及び身体反応について理解させるとともに、適切な対処方法を検討させる。
9	被害者と責任	被害者への影響及び自身の責任について考えさせるとともに、暴力につながらない対処方法を検討させる。
10	再発防止と今後の計画	プログラム全体を振り返り、「再発防止計画」を作成させるとともに、暴力を繰り返さない具体的方策を検討させる。

オプションプログラム

児童虐待	1	オリエンテーション	これまでの「養育」について振り返らせる。
	2	自分の「養育」を理解する	自己が受けた養育及び子どもへの関わりを整理させるとともに、不適切な関わりにつながる思考及び感情のパターンに気付かせる。
	3		
	4	子どもとの関わり方を考える	子どもに対する感情等に気付かせるとともに、適切な関わり方及び対処方法について検討させる。
	5	再発防止に向けた今後の計画	子どもとの関わり方及び危機場面の対応など、再発防止に向けた具体的方策を検討させる。
DV	1	オリエンテーション	これまでのパートナーとの関わりについて振り返らせる。
	2	パートナーへの暴力を理解する	DVにつながる思考及び感情について整理させるとともに、暴力によらない適切な思考及び感情の伝え方を検討させる。
	3		
	4	パートナーとの対等な関係	パートナーに与えた影響等を振り返らせるとともに、対等な関わりについて検討させる。
	5	再発防止に向けた今後の計画	パートナーとの関わり方及び危機場面の対応など、再発防止に向けた具体的方策を検討させる。